「啓翁桜」で新たに確認されたサクラ類炭疽病の特徴と防除方法

山形県農業総合研究センター園芸農業研究所

研究のねらい

令和４年に県内の「啓翁桜」圃場において、葉に褐色斑点が発生し、症状が激しい場合には早期に黄変落葉する被害が確認された。そこで、発生原因が病害であることを突き止め、病害の特徴を明らかにするとともに防除技術を開発した。

研究の成果

① 「啓翁桜」の葉に発生した褐色斑点の原因を調査した結果、病斑部から分離された２種類のカビが引き起こす新病害「サクラ類炭疽病」であることを明らかにした。

② 本病の特徴は５月中旬頃から葉に褐色の斑点が見られ、しだいに拡大して円形や不規則な形の病斑となる。その後、５月下旬から６月下旬にかけて急増し、病斑部が抜け落ちて穴があく症状が見られるようになる。症状が激しい場合には黄変落葉する（図１、図２）。

③ 本病の防除には、生育期（４月下旬から６月中旬）の発病前にキャプタン水和剤（有効成分 80%、800 倍）を散布することが有効である（図３）。

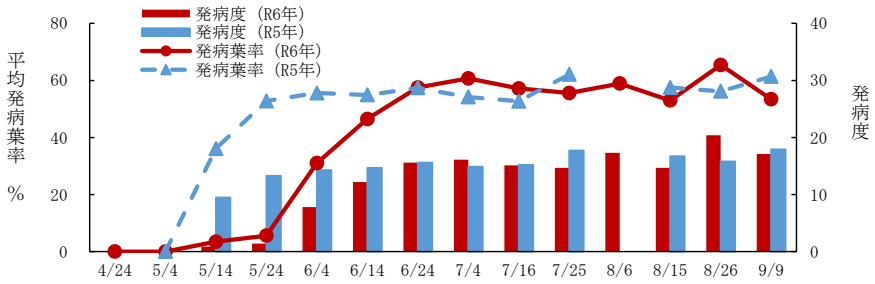


図１　現地調査圃場における発病推移





図２　サクラ類炭疽病の症状
（上：褐色斑点、　下：葉の黄変症状）

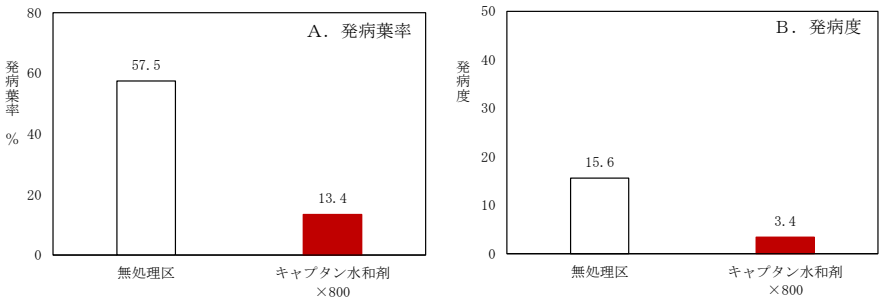


図３　サクラ類炭疽病に対する防除効果（令和６年度）

注）調査樹：「啓翁桜」　樹齢 13～14 年生樹
区　制：１区２樹　３反復
散布日：令和６年４月 24 日、５月４日、14 日、24 日、６月４日、14 日
調査日：令和６年６月 24 日（最終散布 10 日後）

問い合わせ先：園芸環境部　℡：0237-84-4125　e-mail：yenken@pref.yamagata.jp